

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野南小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語の「我が国の言語文化に関する事項」において、市平均を下回り課題が見られる学年があった。また、理科の「エネルギー」を柱とする領域に課題が見られる学年があった。そこで今後も、学習内容の定着を図るため、スタディサプリやドリルパークなどの教材を効果的に活用しながら、学習を進めていく。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」「書くこと」の領域において、市平均を下回り、課題が見られる学年があった。今後は、国語の時間だけではなく、それ以外の教科でも語彙力を広げていけるようにしていく。また、今後も、図書資料の活用を活発に行い、並行読書を取り入れた言語活動の設定や、国語の学習で学んだ読み方を活かす読書活動などを取り入れ、読書の幅を広げていけるようにし、読む力の向上に努める。
主体的に学習に取り組む態度	「〇〇の学習は好きですか。」に対し、肯定的な回答が低い一方で「〇〇の授業の内容はよくわかりますか。」の質問に対して、ほとんどの学年でも肯定的な回答が高い。また、「これまでの授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」では、学校平均で94ptと高くなっている。そこで今後も、学校課題研修などを通し、個別最適な学びの授業の実践を行い、児童一人ひとりが主体的な学びを行っていきけるようにしていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において、1pt向上させる。また、R5年度全国学力・学習状況調査、国語・算数の「知識・技能」において、全国平均を上回る。	⇒ 系統的な学習を充実させ、児童の知識・技能の定着を図る。一人1台タブレットを活用し、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を全学年で行いながら、学習内容の定着を図る。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「思考・判断・表現」において、1pt向上させる。また、R5年度全国学力・学習状況調査、国語・算数の「思考・判断・表現」において、全国平均を上回る。	⇒ 一人1台タブレットを効果的に活用しながら、文章の構成やモデリングなどを提示する。また、学びのポイントを意識した授業を展開し、児童が考えを友達と共有しながら、自身の思考を深められるように授業を展開する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査の「〇〇の勉強は好きですか」の質問において、国語、算数の肯定的回答の割合を80%以上にする。さいたま市学習状況調査の「〇〇の勉強は好きですか」の質問において、国語、算数、理科、社会の学校平均を市平均を上回る。	⇒ 学校課題研修を通して、個別最適な学び、協働的な学びを展開した授業づくり及び、授業の推進により、児童が自ら課題を解決しよう、学びに向かおうとする力を高める。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	(R4・R5年度自校結果比較) (R5年度全国平均比較) 国語 +3.5pt 算数 +2.6pt 国語 +9.9pt 算数 +9.5pt 全学年で「スタディサプリ」「ドリルパーク」を活用し、知識・技能の定着を図り、学習に取り組むことができた。夏季休業中の課題として、スタディサプリを推奨し、積極的にICTを活用した学習に取り組むことができた。	A
思考・判断・表現	(R4・R5年度自校結果比較) (R5年度全国平均比較) 国語 +14.7pt 算数 +0.9pt 国語 +9.8pt 算数 +11.1pt 夏季休業中の研修を通し、「学びのポイント」について、全教職員で理解を深めることができ、学びのポイントを意識した授業を全教職員で行うことができた。国語の学習において、文章のモデルを示し、学習を展開した。	A
主体的に学習に取り組む態度	(令和5年度全国学力・学習状況調査の「〇〇の勉強は好きですか」の質問回答) 国語 73.1% 算数 76.9% (さいたま市学習状況調査の「〇〇の勉強は好きですか」の質問回答) 国語 +0.0pt 算数 +13.0pt 社会 -3.7pt 理科 +4.6 個別最適な学び、協働的な学びを展開した授業を校内授業研究を通し、全教員が実践することができた。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、令和4年度の前年度自校結果と比較し、国語+3.5pt、算数+2.6ptとなった。国語の言葉の特徴や使い方に関する事項において、正しく漢字を活用することができた。算数の「数と計算」の領域において、加法と乗法の混合した計算について、正答率も全国や県平均と比べて大きく上回っており、無解答率も0%であった。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、令和4年度の自校結果と比較し、国語+14.7pt、算数+0.9ptとなった。国語の「書くこと」の領域において、大きく全国の結果を上回った。算数の「データの活用」の領域において、2つのグラフの違いを言葉と数を組み合わせて説明することの正答率が全国や県平均と比べて大きく上回っており、無解答率もきわめて低い。
主体的に学習に取り組む態度	「〇〇の学習は好きですか」の質問項目において、国語は前年度+23.1%、算数は前年度+12.6%となった。しかし、肯定的な回答率を見ると、国語73.1%、算数76.9%となっているため、今後も引き続き、個別最適な学び、協働的な学びを展開した授業づくり及び、授業の推進により、児童が自ら課題を解決しよう、学びに向かおうとする力を高めていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語、算数ともに、教科別の市の平均正答率を上回っている。観点別に見ると、国語の「知識・技能」が+1.5pt、「思考・判断・表現」が-0.2pt、算数の「知識・技能」が+4.6pt、「思考・判断・表現」が-0.1pt、となった。一方領域別に見ると、国語の「我が国の言語文化に関する事項」において、市平均を大きく下回る結果となり、課題が見られる。	小4	国語、算数ともに、教科別の市の平均正答率を上回っている。特に算数では、市平均を+7.0ptとなっている。観点別に見ると、国語の「知識・技能」が+3.1pt、「思考・判断・表現」が-0.9pt、算数の「知識・技能」が+7.0pt、「思考・判断・表現」が+6.9pt、となった。一方領域別に見ると、国語の「我が国の言語文化に関する事項」において、市平均を大きく下回る結果となり、課題が見られる。
小5	国語、算数、社会、理科において、各教科全体の結果が市平均を上回っている。観点別にみると、社会の「知識・技能」「思考・判断・表現」の両領域において、+6.0pt、+6.7ptと大きく市平均を上回っている。一方、理科の「エネルギー」を柱とする領域においては、市平均を上回っているものの、他の領域と比べ校内の正答率の低さから課題が見られる。	小6	国語、算数、社会、理科において、各教科全体の結果が市平均を上回っている。教科ごとに見ると、算数・理科の理数教科において特に市平均を大きく上回っている。また、観点別にみると、どの教科においても「知識・技能」で、市平均を大きく上回っている。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 目標に変更はないが、より児童の主体的な学びに向け、学校課題研修を通し、主体的に自分の思いを伝えられる児童の育成を図る。また、南小の個別最適な学びにおける授業の在り方を探る。